

平成27年9月16日

松山アーバンデザインセンター視察報告

草津市総合政策部草津未来研究所

日時 平成27年 8月 5日 (水) 13時00分 ～16時30分
場所 松山アーバンデザインセンター
出席者 当方 山本 憲一 (草津未来研究所副所長)、溝内辰夫 (草津未来研究所参事)
相手方 松山市都市整備部都市デザイン課 課長 坪内 洋氏
主幹 田中 健太郎氏
愛媛大学 社会連携推進機構 アーバンデザイン研究部門
教授 松本 啓治氏
松山アーバンデザインセンター ディレクター 片岡 由香氏

1. 訪問の目的

草津市においてアーバンデザインセンター (UDC) を設置する場合の課題、及び解決策について調査するために訪問しました。

松山アーバンデザインセンター (UDCM) を視察先に選定した理由は以下のとおりです。

- ① 最も新しいアーバンデザインセンターであり、
- ② 行政主導で設立されたアーバンデザインセンターであること



写真1 松山アーバンデザインセンター外観



写真2 松山アーバンデザインセンター内部



写真3 打ち合わせ風景

2. 松山アーバンデザインセンター設立の経緯

- 平成 25 年 2 月、東京大学の羽藤教授から市長に UDC の設立を提言
- 市長のトップダウンで UDC の設置に向け、庁内で調査開始
- 愛媛大学に新学部構想（平成 28 年 4 月社会共創学部設置予定）があり、大学としても UDCM をトランスディシプリナリー教育の場として期待
- UDCM を執行機関は、既にあった（法定ではなく任意の）都市再生協議会に決定定。
 - 都市再生協議会の構成団体
 - ◇ 商工会議所、伊予鉄道、(株)まちづくり松山
 - ◇ 愛媛大学、松山大学、聖カタリナ大学、松山東雲女子大学、東京大学
 - ◇ 松山市副市長、都市整備部（開発・建築担当）部長、都市整備部長 産業経済部長
- 運営主体の法人設立に課題（設置条例、市の職員の派遣等）があったが、愛媛大学の寄附講座を利用することで解決。
- 拠点は旧市街地の既存空き店舗を改修して使用。改修費等は期間限定（1.5 年）の社会実験として補助金活用。
- 改修費、賃借料は市が負担。市から協議会経由で愛媛大学に 3000 万円を寄付し、愛媛大学が UDC を運営（寄付講座のため、市は UDC 事業の運営に関与せず）。
- 平成 26 年 11 月から平成 28 年 3 月までの社会実験
（なお、平成 28 年 4 月以降の継続を前提に新たな拠点を検討中）

3. 松山のアーバンデザインセンターの目的

- (1) 旧市街地開発への専門家、市民の参画
再開発事業の市民の理解を得る仕組みとして、行政との対立構造ではなく、専門家の助言・指導による参画の場を提供する。
- (2) 市内 4 大学の学生の活動拠点づくり
学生にフィールドワークの場を提供する。
- (3) まちづくりのひとづくり
まちづくりの専門家を 1000 人育成する。

4. UDCM の成功要因

- (1) UDC を都市整備部都市デザイン課の事業に位置づけ（市担当課の決定）
UDCM を都市デザイン課の事業として位置づけ、旧市街地開発など現場の持っている案件を UDCM に委託。
- (2) 大学側に中心となる教員が存在
教授として愛媛大学に出向した国土交通省職員が UDC 設立の中心となった。

(3) 愛媛大学の積極的関与

愛媛大学に新学部構想（平成28年4月社会共創学部設置予定）があり、UDCMと理念が一致したため、積極的関与があった。

(4) 愛媛大学の寄付講座を利用

愛媛大学への寄付講座を活用することにより、設置条例や運営主体の設立等の必要がなかった。

(5) 社会実験として実施

期間限定（1.5年）の社会実験として実施のため、拠点は既存施設の改修とし、賃借のため、失敗の場合の損失が計算可能であるため、議会などの反対がなかった。

5. UDCMの運営体制

- 愛媛大学の寄付講座として運営。
 - 旧市街地開発に関する空間デザインへの参画
 - アーバンデザインスクールの企画・運営
 - 学生などが発案したプロジェクトを支援。

愛媛大学の寄付講座であるため、スピード感がある運営が可能。

6. UDCMの体制

愛媛大学から副所長、シニアディレクター、ディレクター、事務職員の4名を常駐派遣。市の職員を派遣する場合、法制上の課題があるため、当初からUDC設立に関わった職員が退職し、愛媛大学に教授としてUDCMにシニアディレクターとして雇用

7. UDCMの成果

(1) まちなか広場、交差点等の空間デザインの提案

UDCM前の空き地を公開広場にする際、また一番町大街道口の景観整備の際、ワークショップを実施し、ワークショップの案を採用した。

*写真4～7

(2) 旧市街地の空間デザインの提案

松山城の近くに駐車場を作るのではなく、旧市街地の周辺に駐車場を配置し、旧市街地を回遊しなければお城に行けないようにした。またお城までの空間デザインを統一（電線の地中化等）した。その結果、旧市街地にも観光客が来るようになり、若者向けのカフェ等がオープンした。

*写真8



写真4 まちなか広場



写真5 まちなか広場

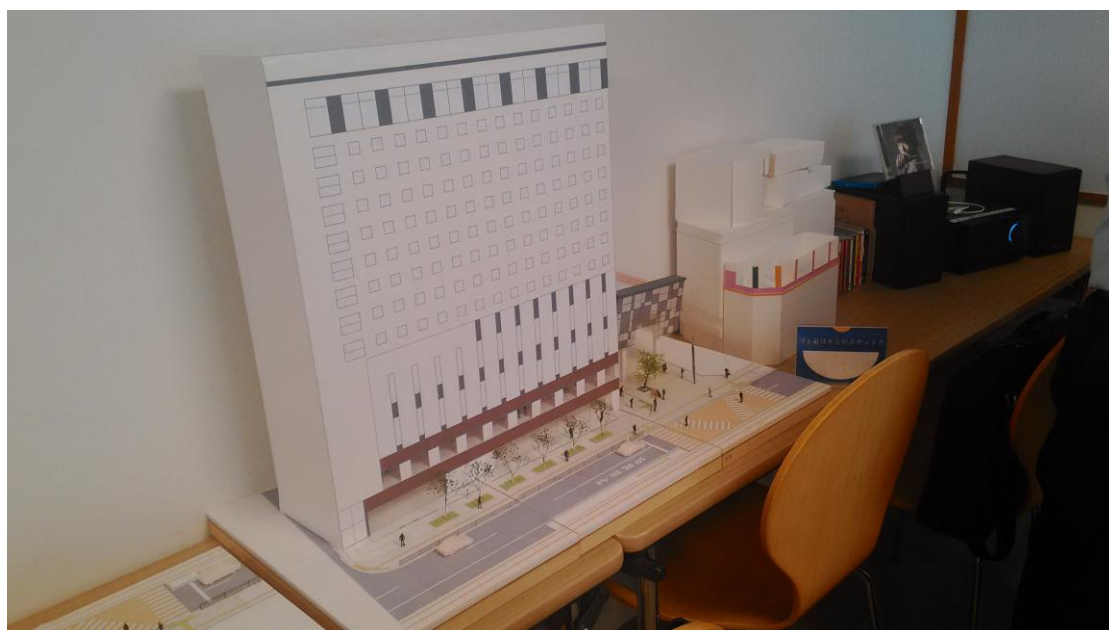


写真6 一番町大街道口の模型



写真7 一番町大街道口



写真8 花園町通り

(3) 学生の活動拠点

愛媛大学等の学生の活動拠点となり、地元商店街とのコラボレーション企画が生まれはじめている。

8. 今後の課題

(1) 社会実験終了後の継続は決定

現在の場所は平成28年3月までの期間限定であり、今後市の施設に移転する予定であり、設置条例が必要となる可能性がある。

- ① 公設民営として、愛媛大学を指定管理者にする方法、
- ② 愛媛大学に業務委託を行い、委託費に施設賃借料を含める方法など。

(2) UDC の評価手法の確立

UDC の評価方法が確立していない。

社会実験開始前に定量的な指標を検討したが、設定できず。利用者へのアンケート調査により継続を決定。しかし、常設施設となると評価方法、及び評価指標を設定する必要あり。

以上